評価結果概要

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社　地域計画連合

②事業者情報

名称：	上尾市立上尾西保育所	種別：	保育所
代表者氏名：	横沢　純子	定員（利用人数）：	120　名
所在地：	〒　362―0074 埼玉県上尾市春日２―２０―３	TEL	048-772-3544

③評価実施期間

令和５年６月１日（契約日）～令和６年３月１９日（評価結果確定日）

④総評

◇特に評価の高い点

〇行事実施の際には、実施する内容や作りたいもの等について、子どもたちと話し合い、考えや意見を取り入れ、子どもの思いに添った内容で実施している

今年の夏祭りの取り組みでは、何をやりたいのか、どんなものを作りたいのか等を子どもたちと話し合って決めている。昨年は年長児が躍るソーラン節を憧れてみていたが、自分たちもやりたいとの意見が出され、ソーラン節とはどんな踊りなのか、何処で誰が何のために踊るのか等を考えたり、調べたりして進めている。取り組みの過程で北海道や漁師のことを知り、自分たちが思い描く漁師に成りきって表現したりする姿もあった。出したい屋台は１０店程の意見が出たが、遊べる店の魚釣りとワニワニパニックの他に、食べ物屋に決まり、店で売るチョコバナナやたこ焼きを制作したり、装飾にする提灯も制作をするなど楽しく取り組む姿が見られている。実施は暑くなる前の午前の時間帯で開催し、盆踊りや山車を引いたり、神輿を担いで、お囃子や親子で太鼓を叩いたりするなど、自分たちで話し合いながら取り組んだ活動に、活き活きと取り組む姿が見られていた。

〇コミュニケーションを大事にした職場環境がつくられ、相談しやすい雰囲気が働きやすさや保護者にとっても安心して利用できる場になっている

保育士の配置や事務の改善などの課題はあるが、職員間の風通しはよく、相談して解決したり声をかけ合い協力できる職場環境があり、のびのび楽しく保育ができるという職員の声もあるなど、コミュニケーションを大事にしてお互いを思いやる関係が、働きやすい環境になっている。保護者からも話しやすく目が行き届いていて安心できる、子どもの発想を大事にしてくれている等の声になり、長年培ってきた泥んこや裸足保育、リズム遊びなどへの理解につながり広く豊かな環境の中で、のびのび子どもが育っている事への共感を深め、安心して預けることのできる場になっている。

〇保育所が持つ機能を生かして、地域に根差した子育て支援に関わる様々な交流の実践を通して、保育所や子育てへの理解を深める取り組みをしている

保育所見学は市報や市のホームページに掲載して広く市民に周知し月２回を行い、市民の方々に保育所の役割や子育て支援への理解を図る機会にしている。また、同じ敷地にある子育て支援センターが企画する「園庭開放」や「保育所であそぼう」「ももっこ広場」等に対して、地域の親子が保育所で遊んだり交流する機会を設け、保育所の取り組みを見たり、一緒に楽しんだりして保育所を知ってもらう機会となっている。地域事業としての様々な取り組みは、保育所の機能を活かした地域における子育て支援の重要な役割を担っている。さらに、「上尾市児童発達支援センターつくし学園」の子どもたちとも定期的に交流を重ねることで、子どもたちが様々なリスクを抱えている子どもに対して、関わり方を知る機会になり、社会性を身に着ける経験になっている。近隣住民には、夏祭りや運動会は案内を配布して関わりを大事にしている。このように多く企画を実施して、地域住民や親子との交流を通し、保育所や子育て支援の理解を図っている

◇特にコメントを要する点

〇業務の効率化を図り、安定して保育に向き合える職員の環境づくりについての検討が望まれる

　ＩＴ化が進むものの端末などの環境が整わず、職員は書類作成等に要する時間の確保の難しさを感じている現状である。さらに、職員会議や朝礼など様々な業務があり、職員の中には、業務への負担感を抱いている面も見受けられる。そうした事を踏まえて、職員会議、書類作成、引継ぎ等、職員が関わる業務に関する見直しや効率化を図ることが望まれる。職員調査の「改善すべき点」にも事務時間の確保の難しさに加え、職員会議での話し合う内容や進め方、会議の時間の長さや行う時間帯などの効率化を求める意見が記載されている。市としてもこうした現状を踏まえ、保育所職員（主に主査）中心にプロジェクトチームを立ち上げ取り組み始めているところではあるが、当保育所としても会議の在り方、会議の時間、記録の取り方、朝夕の引継ぎ等々、会議のみならず業務の多い現状をどうしたら効率化が図れるか日々の業務を見直して、職員の働きやすい職場づくりに向けた取り組みが行われることを期待したい。

〇保育室内の環境構成について空間の有効利用や、遊びのコーナーの作り方、配置している玩具の種類や数等について、子どもの遊びの更なる充実が図られるよう職員間での検討を望みたい

　各保育室内には絵本のコーナーとままごとのコーナーが設置され、カラーボックの中に、手作りの箱の中に入れたブロック、人形、ままごとの玩具、手作りの玩具等が用意されている。箱には何が入っているのか分かるように写真を貼り保管しているが、保育時には保育士が箱ごと出して子どもが選んで遊ぶようになっている。絵本のコーナーは玄関と廊下（貸し出しの絵本）やクラス毎に三か所で利用できるが、低年齢児については棚の上での保管のため、子どもの要求に応じて保育士が出すようにしている。幼児クラスの絵本棚は背表紙からは読みたい絵本がすぐには選べない状況にあるため、子どもが読みたいと思った時に取り出して見られる保管の方法を検討されたい。保育室もそれぞれに広い空間が確保されているので利点を生かして、コーナーの作り方と合わせ玩具の配置、種類、数を含め子どもが自ら手に取れるようなより主体的に遊べる環境設定の工夫を期待したい。

〇保育所独自の事業計画、事業継続計画（BCP）安全計画の作成を実施し、計画の内容について職員や保護者への周知を期待したい

　保育所では市の「第２期子ども子育て支援事業計画」や全体的な計画を事業計画と位置づけている。市の子育て支援事業計画に沿って地域子育て事業が展開され、保育所でも、併設の子育て支援センターと協力して地域に向けた事業を実施している。今後、事業計画として、保育所の運営の課題、職員育成の計画、地域支援の計画などを具体的な取り組みにして、進捗状況を把握する方法の検討と年度終了時には到達状況の報告をする事の検討を図られたい。全体的な計画では、保育の取り組みに対しては期や年度末に振り返り、次年度の内容を検討しているので、健康管理や安全対策・事故防止、保護者支援など８項目に対しても、進捗状況を把握して振り返る機会をもつことを期待したい。また事業継続計画に対しては、市の保育所としての継続計画を踏まえ、園として事業再開に対して職員体制を含めての検討や安全計画では健康計画と連携を考えた園独自の検討も期待し、これらの計画内容に対して、職員はもちろん保護者に対する周知も図られたい。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

日頃より子どもの最善の利益を第一に考え保育し、保護者とともに子どもたちの成長を支えられるようコミュニケーションを図ってきました。また、職員間での情報の共有や共通の思いを持ち保育にあたれるよう努めてきました。今回の第三者評価を通して、子どもたちが過ごしやすい環境づくりを職員全体で再確認し、今後も子どもが主体的に活動できるよう工夫をしていきたいと感じました。子どもや保護者、職員にとってより良き保育所となるよう今後も取り組んでいきたいと思います。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり